

医療機関における外国人旅行者及び 在留外国人受入れ体制等の実態調査

平成29年8月1日

調査概要

■調査期間

平成28年10月1日時点の状況、もしくは外国人患者受入れの状況等については平成27年度の実績を調査。
調査期間は、平成28年10月20日から12月12日。

■調査対象・回収率

①医療機関

- ・救急告示病院と平成27年度に「訪日外国人旅行者受入医療機関」として観光庁により選定された病院を対象。
(両方に該当する場合、一病院に対して調査票は一部とした。)
- ・回収率45.5%(対象数3,761、回収数1,710)

②自治体

- ・都道府県と政令指定都市、中核市、在留外国人・外国人旅行者数の多い区市町村を対象。
- ・回収率83.2%(対象数226、回収数188)

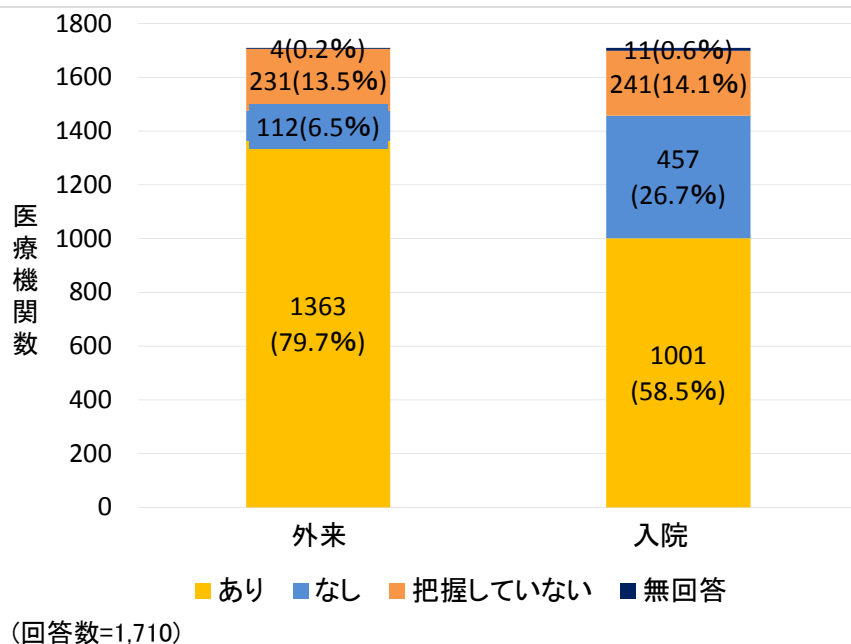
③医療通訳サービス提供事業者

- ・委託業者によりインターネットで情報収集し抽出した事業者を対象。
- ・回収率58.8%(対象数80、回収数47)

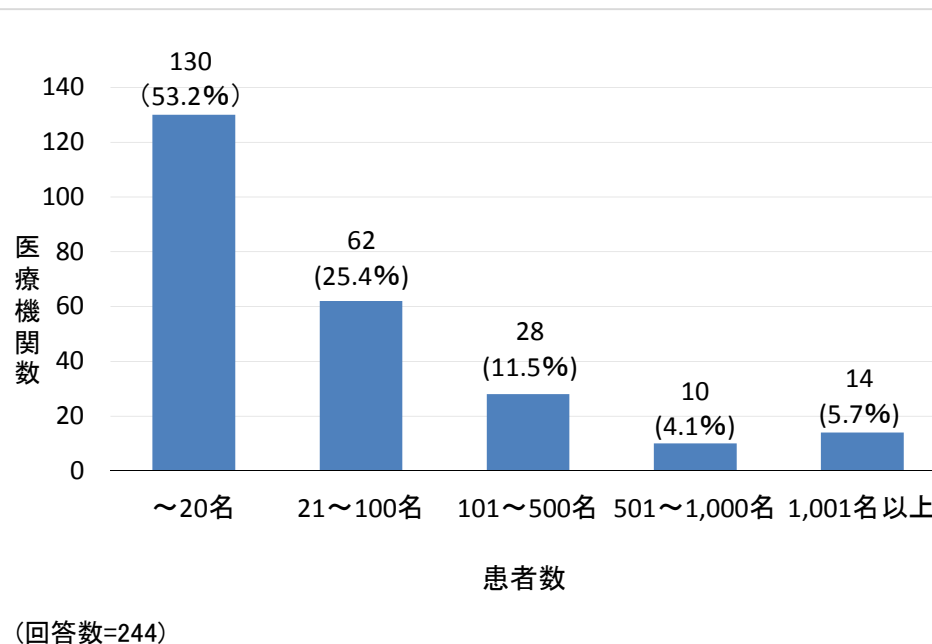
外国人患者受入れの状況

- ① 外来では79.7%、入院では58.5%の医療機関※¹で外国人患者の受入れ実績がある。
 ② 外来での外国人患者の受入れがある医療機関※²において、半数以上が年間20名以下の受入れであった。他方で、年間1,001名以上の受入れがあった医療機関は5.7%となっている。

① 外国人患者受入れの実績



② 外国人患者数(外来)



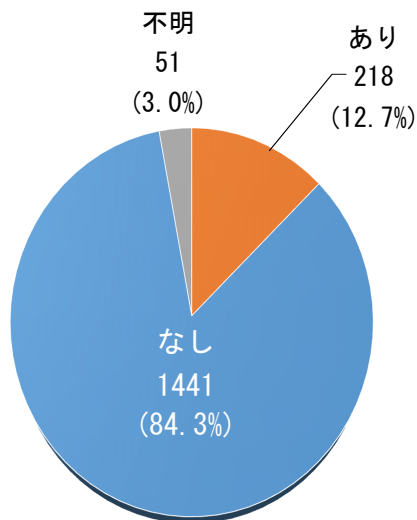
※¹ 調査対象の医療機関の内、回答のあった医療機関(n=1,710)

※² 外来での外国人患者の受入れがあり、その患者数を実数で把握している医療機関(n=244)

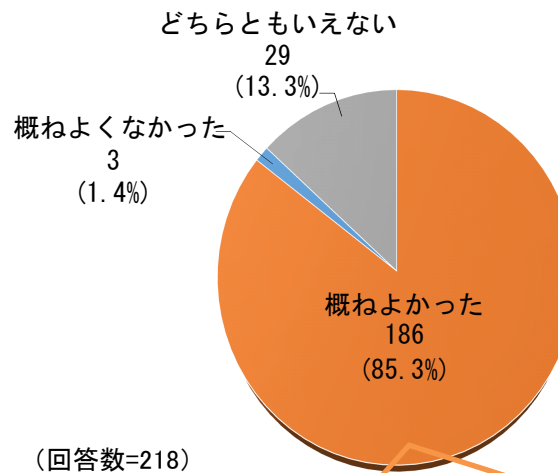
医療通訳の利用

- ① 医療通訳(電話通訳を含む)を利用した経験がある医療機関は12.7%。
 ② そのうち、85.3%が利用して「概ねよかった」と回答。その理由として、「職員の負担の軽減、時間の削減が図られた。」「トラブルが未然に防げた。」などが挙げられた。

① 医療通訳の利用経験



② 医療通訳サービスの利用結果



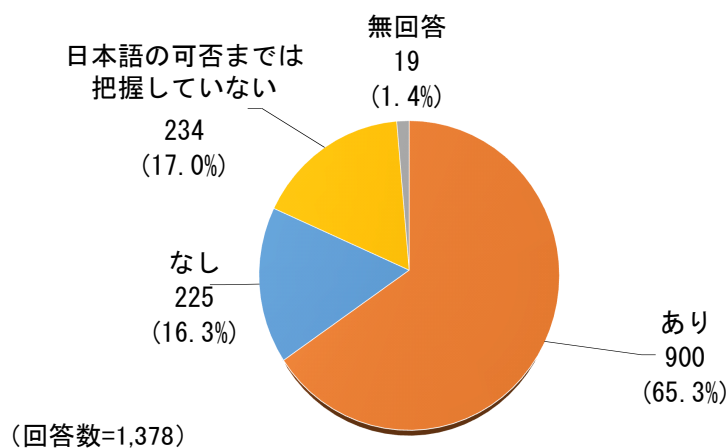
【「よかった」と回答した理由】

- ・職員の精神的・肉体的な負担の軽減、時間の削減が図られた。
- ・スムーズに患者の治療が行えた。
- ・意思疎通ができないことが原因で起こるようなトラブルが未然に防げた。

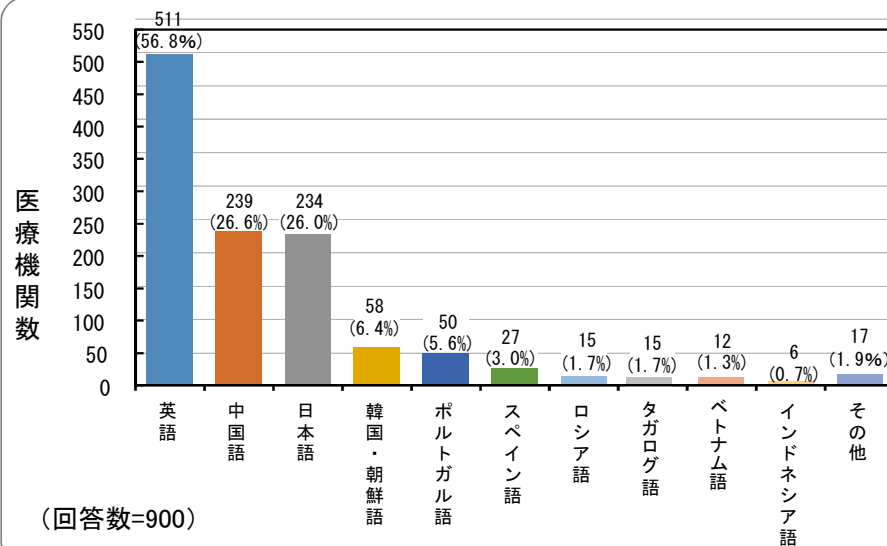
日本語でのコミュニケーションが難しい外国人患者への対応

- ① 外国人患者の受入れ実績があった医療機関のうち、日本語でのコミュニケーションが難しい患者を受け入れたのは65.3%。
- ② 上記外国人患者に対して、「英語」で対応した医療機関が56.8%で最も割合が高い。次いで中国語が26.6%、日本語が26.0%。

① 日本語でのコミュニケーションが難しい外国人患者の受入れ



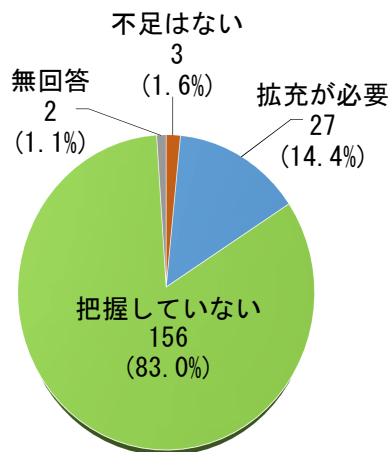
② 対応に使用した言語



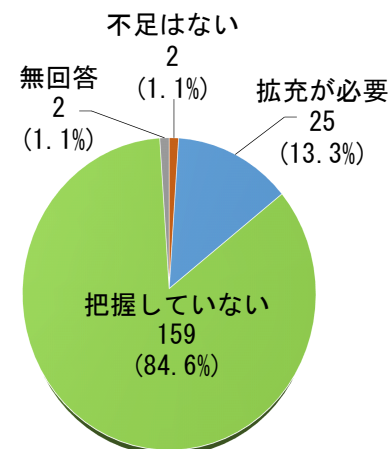
外国人患者受入れ体制の状況

- ① 外国人患者受入れ可能な医療機関の数や医療設備面に「不足はない」と考えている自治体は1.6% 「拡充が必要」と考えているのは14.4%。「把握していない」は83.0%で最も割合が高い。
- ② 医療通訳者等の人員面についても同様に、「不足はない」と考えているのは1.1%、「拡充が必要」と考えているのは13.3%。「把握していない」は84.6%で最も割合が高い。

① 受入れ可能な
医療機関数や医療設備面



② 人員面(医療通訳者・
外国人住民への相談事業に係る人員等)

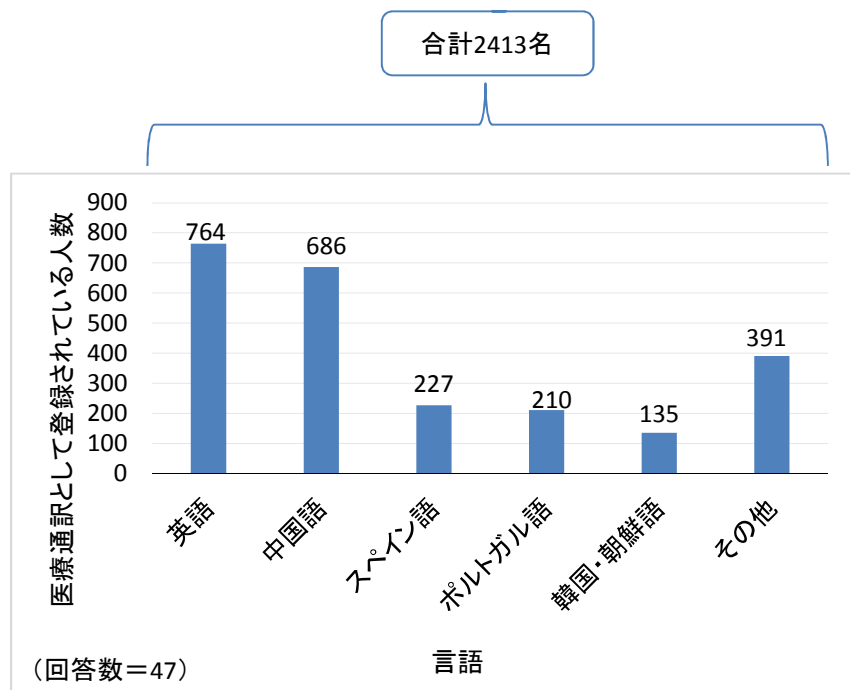


③医療通訳サービス提供事業者調査

現在の医療通訳の状況

- ① 回答事業者における医療通訳として登録されている人数の合計は約2,400名。
(ただし、複数の事業者に重複して登録されている場合あり。)
- ② 医療通訳の問題点について、
- ・「医療通訳の担い手となる人員の確保」を問題点と捉えている事業者が55.3%。
 - ・「医療機関等の医療通訳に関する知識・理解」を問題点と捉えている事業者が48.9%。

① 医療通訳として登録されている人数



② 現在の医療通訳の問題点

